

異文化と心通わせ

つくば通信

⑯ 村田 佳子



先日の朝、スリランカ人研究者の女性が朝、職場の体育館から出てきました。気持ちを切り替へたくて自転車漕ぎの器具で運動をしていたのだそうです。その前日、母国で起きた爆弾事件で従兄弟が亡くなり眠れなかつたと話しました。

話をしてばかりだ
たそうです。仕事の休憩時間に外に出かけた際、
惨事に巻き込まれたそうです。
です。例えば、「じゃあ
来週で飯食べよう。また
連絡するね」と友人と約
れる時、その相手ともう
会えなくなるなんて想像
しただけで悲しくなりま
す。

来日中、バグダッド市内での爆撃で親友を失いました。その3週間前、彼は日本で携帯電話を購入したことをその親友にメールで連絡したところ、早速国際電話をかけてきの男性が数年前に初来日

逆にここでは思いがけない、いいニュースにもあります。パリのダラリーラリーで有名な父力先生が、いいニュースにもあります。パリのダラリーラリーで有名な父力先生が、40代の男性が数年前に初来日

キープ・イン・タッチ

書類を書いたら、パスポートを確認したりと滞在のための手続きをします。他には20人ほどだったでしようか、同じように来日した方が機を並べていたその朝のことで、す。

休憩時間、彼は思い切ってロシア語で声をかけてみました。するとアフリカ人男性に背後からロシア語で声をかけられ、驚いたその女性も思わずアフリカ語で返事をしたのです。彼と彼女は20年前ロシアの大学で同級生だったのです。卒業後はそれぞれ母国に戻り、日本農林水産省にあたるところで研究に携わっていました。20年という歳月が経過し、今度は日本でまたクラスメートになりました。世界は小さい、

うの日のことなどを話してくださいました。初めは緊張していましたが、だんだんと打ち解けてそれから10ヶ月、充実していくあります。そういう間だったといいます。そして今「日本の秋の空氣も、出会った皆との時間も全部奪ひました」と話します。

真ん中がギニアのハンジニア女性、右がルーマニアのハンジニア女性、左が筆者。レポートの発表会を終えてホッとしている時の写真です

よりと思ふ出しながら、一
緒の時間を大事にしたく
と思います。(福岡市田
身、JICA筑波国際セ
ンター・クリニックロー
ディネーター)

その後の姿を見つけました。ロシアに留学をしていたヒルダ・クライスマートだった南米人女性に雰囲気がよく似ていたのだそうです。まさかとは思つたけを迎えレポートや帰國後の計画立案に追われています。忙しそうな見えますが活潑も感じられます。来月帰国を控えたルーマニア人エンジニアの女性